

## 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン 2013年度 夏期募金による活動報告書

募金件数:8,564件

募金金額:62,508,518円

募金期間:2012年10月1日～2013年9月30日

皆さまにご協力いただきました夏期募金により、シリアやアフガニスタン、南スーダンなどで、内戦後の困難な中を生き抜く子どもたちや人々への支援を行うことができました。感謝とともに、ご報告させていただきます。



レバノンの難民キャンプで暮らすシリアの子どもたち



### シリア

#### 支援地域の状況

シリア国内で2011年3月に始まった内戦により、これまでに約425万人が国内避難民となり、215万人以上が近隣国であるヨルダン、レバノン、トルコなどに逃れました(2013年10月6日現在)。避難した人々のうち100万人以上が子どもたちです。難民の周辺国への流入は日々増え続け、周辺国では新しい難民キャンプの整備や、難民を受け入れる地域の人々への生活支援が続いています。

劣悪な住環境の難民キャンプでの生活支援には、特に女性や子どもたち、高齢者、障がいを持つ人々など立場の弱い人々への配慮が必要です。また、紛争を経験した子どもたちの精神的なケアや、避難先で適度にストレスを発散できる環境作りも緊急の課題です。さらに、難民を受け入れる地域の負担も増大しており、周辺国への支援も必要不可欠となっています。

避難民は、資格があっても希望する仕事を避難先で見つけることが難しく、シリア国内で蓄えた貯金を切り崩して生活しています。特に、母子家庭や、障がいを持つ人々の生活は厳しく、支援が欠かせません。また、周辺国では、難民流入などの影響で物価が高騰し、受け入れ地域の人々の生活上の不安は日々大きくなるばかりです。

ワールド・ビジョン（以下、WV）は、国連児童基金（ユニセフ）や国連食糧計画などの国連機関と連携しながら、シリア国内と周辺国にて国内避難民・難民、および受け入れ地域の立場の弱い人々に、保健、水・衛生、教育の支援や、生活必需品の配布を行いました

ヨルダンに逃れてきた人々が暮らす難民キャンプは砂漠にあるため、気温差の激しい環境の中で体調を崩す人々が少なくありません。WVは、医療施設の整備に加えて、診療支援なども実施しており、人々や子どもの避難生活を支えています。また、キャンプ生活で学校設備も教師も不足しているために、学校に通えない子どもたちへ、教育支援として、補習の実施などの活動を行いました。

レバノンに避難した難民の一部は、空き地にテントを立てて生活しています。WVは、着の身着のままシリアから逃れてき

た難民に、衛生用品やベビー用品の支援を行っています。また難民の中には近隣住民の厚意で水道の水が利用できる世帯もあれば、安全な水の利用が困難な世帯もあります。安全な水やトイレの不足は、下痢や皮膚病などを蔓延させる恐れがあります。WVは、テントで暮らす難民に対し、給水設備やトイレの設置、衛生用品の配布、衛生に関する啓発活動などを実施しています。これらの支援により、人々の衛生状況は徐々に改善されています。

さらに、戦闘の恐怖を目の当たりにし、家族など大切な人や住まいを失ったりしたことで心に傷を負った子どもたちへのサポートとして、チャイルド・フレンドリー・スペースという、子どもが安心して遊べるスペースを提供しています。狭いテントや仮住まいの生活の中でもストレスを発散できるように、この活動によって、子どもたちの心身の健全な発達を促す一助となっています。



レバノンに逃れた難民や受け入れる地域の人々に、食糧、調理セット、衛生用品を配布するWVスタッフ



チャイルド・フレンドリー・スペースで遊ぶ子どもたち

### 担当、村松スタッフより

長引く紛争の中で、紛争の犠牲者の多くが子どもたちであることに胸が締め付けられます。「子どもたちはシリアの未来。いま子どもたちが教育を受けなかったら、どうやって社会を変えていくことができるのでしょうか?」といったあるお母さんの言葉が忘れられません。シリアでの内戦が早く終結し、子どもたちが安心して暮らせるような平和な国になるように願っています。皆さまからのご支援により、シリアから逃れた人々や受け入れ地域の人々にこれからも寄り添い、支援を届けていきます。ご支援に心より感謝します。

### ロケット弾から九死に一生を得たムナちゃんと家族の話

ムナちゃん（1歳）のお母さんワエドさん（21歳）は、シリアの自宅近くの助産婦さんの家でムナちゃんを出産したその時、自宅をロケット弾で破壊されました。「ムナのおかげで命拾いました」とワエドさん。その後、二人とワエドさんのお父さんのイブラヒムさんはヨルダンに逃れ、3家族18人とともに小さな家を借りて暮らしています。

「私たちはシリアで幸せでした」とイブラヒムさんは怒りを抑えながら言いました。ムナちゃんがそんな祖父の顔にやさしく触れると、彼はムナちゃんを抱き上げ、頬ずりしました。「子どもや孫たちが暴力を恐れることなく平和に暮らせる日が来てほしい。いつかシリアに帰りたい」とイブラヒムさん。

WVは、ヨルダンに避難したシリアの人々に食糧支援や教育支援を行っています。





# アフガニスタン

## 支援地域の状況

1970年代から続いた紛争や度重なる自然災害の結果、アフガニスタンでは政府の施設、特に保健・教育関連施設などの社会基盤の多くが現在でも破壊されたままです。新たな政府が樹立されたものの、医師や看護師の多くが国外に流出し、保健・医療従事者が著しく不足しています。そのため、妊産婦や子どもたちの置かれた状況は厳しく、妊娠や出産で命を落とす女性が出生10万件あたり1,400人(日本は6件)、1歳まで生きられない乳幼児が1,000人中103人(日本は2人)となっています(※1)。

西部地域ヘラート州も、激しい戦闘により、保健・医療関連施設が大きな被害を受けました。その中でも、州政府機関として助産師・看護師の養成や研修を担ってきた保健科学院は、内戦の被害に加え、建物の老朽化により、必要な教室や備品も十分に確保できていません。現在は授業の多くを、会議室や病院の空き室、外部施設などを借用して実施しています。

また、宗教的・文化的理由から、女性は男性医師の診察を受けることができず、地域住民、特に女性の健康状態の改善には、女性医療従事者の養成が急務となっています。

## ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

ワールド・ビジョン・ジャパン(以下、WVJ)は、皆さまからの夏期募金とジャパン・プラットフォーム(※2)の助成により、ヘラート州の保健科学院の校舎を1棟建設し、机や椅子など必要備品の整備に取り組んでいます。校舎は、助産師、保健師、薬剤師や臨床検査技師などの養成に用いられ、この国の医療・保健環境の向上への貢献が期待されています。

まず、校舎建設のために、建設業者や施工管理技士を多くの候補の中から選定しました。そのために費用の比較とともに、候補となる建設業者が造った建物の質の調査を行いました。施工管理技士は、現場監督の役割だけでなく、コンクリートな

どの建設資材の質の検査なども行い、この国の保健環境を担うにふさわしい校舎の建設に貢献しています。

また、この支援への政府機関からの期待は大きく、中央政府からの建設許可の取得など、公衆衛生局など州の政府機関から大きな協力を受けることができました。

ラマダン(※3)の期間、イスラム教徒の人々は太陽が出ている間は水や食事を摂らないため、炎天下の日中は工事を行いませんが、早朝の涼しいときに作業を行うなどにより、2013年12月末日には予定通りに校舎が完成する予定です。

校舎完成後は、中断を余儀なくされていた助産師・看護師の養成や再研修が可能となり、最新の医療知識に基づいた医療サービスを提供できるようになります。また、同様に不足している薬剤師や臨床検査技師などへの研修も実施されます。本校舎を拠点として、破壊された保健・医療サービスが改善されるように、WVJは今後も継続して支援を行います。



保健科学院の校舎建設を記念する式典。州知事や市長、公衆衛生局長、病院関係者などが参加しました



施工管理技士(写真右)による鋼材の確認作業。建設資材の質の管理も徹底されています

## 担当、村松スタッフより

ヘラート州保健科学院は、助産師・保健師など医療従事者の養成のための州の拠点となることが期待されています。将来も長く機能する学校とするために、計画や業者の選定を慎重に行いました。また、治安が良くないために日本人スタッフが現場に入れないので、アラブ首長国連邦(ドバイ)での現地スタッフとの会議や、インターネットを使っての会議により、事業が円滑に進むように工夫しています。本校舎で多くの医療従事者が育ち研修を受けることで、子どもたちや妊産婦などが、質の高い保健・医療サービスを受けられるようになればと支援しています。



# 南スーダン

## 支援地域の状況

北部に位置するアッパーナイル州ファショダ郡では、南スーダンが独立した2011年7月以降、難民が多数帰還してきました。しかし多くの社会基盤とともに、学校などの教育施設も不足し、教師の質も不十分で、授業を受けることのできない子どもたちも少なくありません。また、人々は、清潔な水を手に入れることが難しく、濁った川の水を飲んでます。トイレを使う習慣のない人々も多く、屋外で排泄を行っているため、衛生環境の悪化が深刻です。

## ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

ファショダ郡に帰還してきた人々や受け入れ地域の人々を対象に、WVJは皆さまからの夏期募金とジャパン・プラットフォームの助成により、教育、水・衛生分野の支援を行っています。

教育支援では、子どもたちを取り巻く教育環境の改善のために次のような活動を行いました。

まず、政府関係者や地域の住民と話し合い、教育の重要性を確認しました。これまでに校長16名を対象とした学校運営のための研修を実施し、昨年度養成した2つのPTA（男性14名、女性12名）に再び研修を実施しました。PTAは、今後建設する校舎や提供する学校備品を管理し、学校運営や教師の質向上に対して働きかけることが期待できます。また、時計や辞書などの学校備品を学校へ配布しました。

水・衛生分野では、安全な水がより多くの人に届くこと、そして住民の衛生に関する理解が深まることを目的として活動しています。これまでに、家庭の飲料水が安全かどうか水質調査を実施し、その結果を受けて、今後は浄水装置の設置と、その装置を住

民自ら管理できるような体制づくりも進めていきます。

また、12名の衛生ボランティアに対する公衆衛生研修を実施しました。衛生ボランティアは公衆衛生キャンペーンを通して、トイレの使用についての啓発をこれまでに住民約1,000名に行いました。今後は、生徒や地域の人々にさらに衛生に関する理解を深めてもらえるように働きかけていきます。

引き続き、延べ41,380人の帰還民および受け入れ地域の人々のために、水・衛生分野の社会基盤整備を通じた支援を継続する予定です。



国際手洗いの日（10月15日）に、子どもたちと国吉スタッフ。支援により、子どもたちに手洗いの習慣をつけるための啓発を行いました



学校備品として時計と辞書の配布を受けた校長たち

## 担当、国吉スタッフより

今年、南スーダンで活動していて一番苦労したことは、教員研修の実施のために行った教育省との交渉でした。教育省もWVも「子どもたちの将来のために」という点では一致していても、希望する方法が異なり、一時は妥協点さえ見出せませんでした。しかし、繰り返し話し合い、柔軟に交渉を続けることでようやく合意に達することができました。双方納得がいく形で研修を計画することができた時、必要な支援を届けることができると感じました。子どもたちが、楽しく遊んだり学んだりすることが困難な環境で、皆さまからの募金を通して、子どもたちを支援できることを嬉しく思います。

※1 出典：ユニセフ「世界子供白書2012」 ※2 ジャパン・プラットフォーム：日本の国際人道支援組織。日本のNGO、経済界、政府が対等なパートナーシップの下、それぞれの特性・資源を生かした協力・連携を行い、難民発生時・自然災害時の緊急援助をより効率的かつ迅速に行うための組織。 ※3 ラマダン：イスラム社会で使われている暦（太陰暦）の第9月。この月の1カ月間は毎日、イスラム教徒は日の出から日没まで断食を行う。太陽暦の該当日は毎年異なり、2013年は7月10日から8月8日。

### ●募金についての問い合わせ先

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL:03-5334-5351 FAX:03-5334-5359 Email:dservice@worldvision.or.jp

<http://www.worldvision.jp>

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー（政府や市民への働きかけ）を行う国際NGOです